



サーミスター利用の温度センサー製造 大泉製作所の事業展開



十和田新工場の外観

大泉製作所は、サーミスターを利用した温度センサーを製造・販売する電子部品メーカー。素体からセンサーを組み立て品まで全てをグループ内で一貫生産し、グローバルに供給している。近年は主力の自動車向けを中心に順調に業績を拡大しており、需要増大に

るための設備投資にも積極的取り組み、度々積極的に取り組んでい。今後も中期での売上高拡大と利益率の改善を推進する。同社は1944年3月に設立され、78年の歴史を持つ企業。原料の焼結、素子加工から最終品アセンブリまで全てを自社グループ内で一貫生産できる体制を構築し、均質かつ高品質な製品を供給している。

同社グループの事業製造を行う。営業拠点は国内5工場（青森県十和田市3、同八戸市1、同五戸町1）のほか、の拠点を開設している。製造を行う。営業拠点は顧客の近くでの営業サポートを方針に、国内外で多くの拠点を開設している。特にカーエアコン

素体から組立品まで一貫生産

自動車向け グローバルで供給

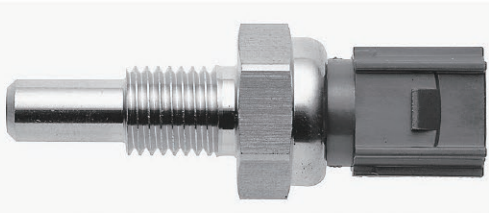
海外では中国・東莞と、国内は東京、刈谷タイのチョンブリに工場を展開。素体とセンサーのほかに、海外は東莞とチョンブリのほか、中国・上海と独自に拠点を有している。



サーミスター素子 シュツトガルトに拠点を有している。

同社の21年度（22年3月期）の連結業績は、注力分野の電動補償向けや駆動モータ

化領域などでの販売増により、2桁の増収増益となった。22年度も増収増益を計画し、さらに中期目標として23年度には営業利益率を8%に引き上げる目標を掲げている。売上高のアップリケーション別では、自動車向けが約6割を占める。特にカーエアコン向けで高いグローバルシェアを有しており、最近では電動車のカーエアコン向けの販売が好調に拡大している。エアクン向けの販売が好調に拡大している。エレクトロニクス部品事業は高速伝送ニーズの高まりに伴い、光トラシイバーでの温度補償用途などでサーミスター素子の販売が増加している。



エアクンクーラント用温度センサー

同社の強みについて、浜田めぐみ執行役員財務部長兼IR室長は「当社の売り上げ全体の約6割を自動車向けが占めており、品質要求の厳しい自動車関連の顧客から長期信頼性などへの寄与が評価されている。また、加工技術や組み立て技術で、製造コストを抑えつつ新製品の開発につなげている」と説明する。

同社は、需要増大に対応するため、国内でサーミスター素子の生産能力増強を進めており、現在、十和田工場での新たな焼成炉の建設を進めている。新焼成炉が完成する23年度にはサーミスターの素体生産量は従来の1.5倍に増強される見通し。さらに中長期の需要を視野に、さらなる増産の検討も進める。